

豊かなこころを育てる読書



「食物はからだの糧、読書はこころの糧」という西洋の名言があります。読書は温かいこころを育てるうえで大切なものであるということの意味しています。

今、子どもたちの読書離れが大きな問題になっています。その原因のひとつとして、マスメディアの発達によって子どもたちの楽しみを味わう手段が多様化してきていることがあげられます。また、塾通いなどで、子どもたちの生活が忙しくなっていることもあげられます。

読書は、私たちに想像力や考える習性を身につけさせ、豊かな感性や情操、思いやりのこころを育ててくれます。また、読書を通じて、子どもが感じたり考えたりしたことに耳をかたむけ、話し合うなど、親子の会話を深める機会として活用することも大切です。

特に幼児期の子どもには、親子のふれあいのためにも読み聞かせが大切です。親のぬくもりを感じながら本に接するひときは、読書の興味が増すばかりではなく、感性やこころを豊かにする貴重な時間になります。

一人で悩まないで 出雲市子ども支援センターに相談してください。

さまざまな悩みや心配ごとを抱える子どもや、その保護者などから寄せられる相談に応じます。必要によって地域のボランティアなどの協力を得ながら、継続的なサポートをしていきます。気軽にご相談ください。

相談内容

- ・ 非行や問題行動について
- ・ 性格や行動、身体や心の問題について
- ・ しつけや家庭教育について
- ・ 不登校や登校しぶりについて

※平成19年度の相談件数は994件ありました。

相談方法

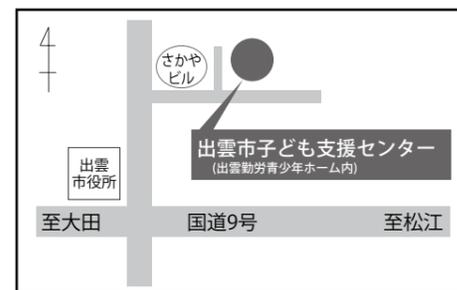
- ・ 電話相談と面接相談(予約制)です。

相談電話(フリーダイヤル)

0120-84-7867

相談日時

- ・ 月～金曜日 / 8時30分～18時まで
- ・ 土曜日 / 8時30分～17時まで
(ただし、祝日・年末年始を除きます)



青い旅



こころもからだも実りの秋に

平成20年(2008)9月

暑かった夏も終わり、秋がやってきました。秋は、“実りの秋”“スポーツの秋”“読書の秋”“食欲の秋”などといわれ、作物が実るとともに、精神的にも、身体的にも充実していくことのたとえとして言われています。気候も良く、何をするにも最適な季節です。

子どもたちがこの季節を有意義に過ごし、心身ともにたくましく成長してくれることを願い、心身の発達に大きな影響を与える「あそび」と「読書」について考えてみたいと思います。

あそびとこころ・からだの発達

以前は、子どもにとって「あそび」＝「生活」でした。しかも、その「あそび」は、地域での異年齢集団で、体をぶつけあったり、飛んだり、はねたり、はしゃいでいる姿でありました。

しかし、今の子どもたちは必ずしもそうとはいえないようです。地域での外あそびが消え、子どものあそび場所が自宅の「部屋」になり、テレビが友だち。友だちがいても、それぞれであそぶ(ゲームなどをする)といった状況のようです。

身体を使ったあそびは、子どもの心身の発達にもたらす影響には大きなものがあります。子どもはそれぞれの発達段階に応じたあそびを行います。そのあそびによって、無意識のうち精神的・肉体的に大きな影響を受けて育ちます。



外あそびの効果

- ・ からだの器用さを身につける。
- ・ 素早い行動ができる。
- ・ 筋力を高める。
- ・ 的確な状況判断ができる。
- ・ 人間関係を学ぶ。
- ・ ルールを守る。
- ・ 痛みを知る。



「あそび」は、子どもが健やかに育っていくうえで欠かすことのできないものです。「外あそび」の効果をもう一度見直し、地域にあそぶ子どもたちの姿を取り戻したいものです。

おたずね：出雲市子ども支援センター ☎21-4444